

博士前期課程				博士後期課程				
情報	授業科目の区分	設置単位数	情報処理学専攻修得単位数		情報システム学専攻修得単位数		情報生命科学専攻修得単位数	
			研究論文の場合	課題研究の場合	研究論文の場合	課題研究の場合	研究論文の場合	課題研究の場合
	基礎科目	11	6		6			
	一般科目	29	6		6			
	専門科目	141	16		20			
	ゼミナールⅠ	1	1		1			
	ゼミナールⅡ	1	1		1			
	研究論文	6	6		0			
	課題研究	2	0		2			
合計		30		30				

1.博士後期課程の修了要件
 博士後期課程を修了して、博士の学位を取得しようとする者は、必要な研究指導を受けた上、博士論文を提出して、その内容を公聴会で発表し、論文審査及び最終試験に合格しなければならない。
 なお、博士後期課程に入学してから一年6か月後、副指導教員の出席のもとで、研究の中間報告をする。
 また、必要と認めるときは、所要の授業科目の単位の修得を課すことがある。

2.博士論文を提出するときの目安は概ね次のとおりである。
 (a)博士論文の研究内容に、獨創性、新規性あるいは有効性があること。
 (b)博士論文の主題に相当する内容が、査読付きの論文 (full paper) あるいは査読付きの国際会議での発表論文 (full paper) に準ずるものとして、発表されているか又は近々発表予定であること。

3.博士の学位を授与する条件
 論文審査により、博士論文を提出した者が、独立した研究者又は技術者として、研究・開発活動を続けていく充分な素養を備えていると判断できること。

授業科目の種類	設置単位数	細胞生物学専攻・分子生物学専攻			
		フロンティアバイオコース 必要修得単位数	バイオエキスパートコース		
			A 必要修得単位数	B 必要修得単位数	C 必要修得単位数
科学技術論・科学技術者論	1	(**)	(**)	(**)	(**)
情報科学概論Ⅰ,Ⅱ	2	(**)	(**)	(**)	(**)
物質創成科学概論	1	(**)	(**)	(**)	(**)
科学英語	1	(*)	(*)	(*)	(*)
科学英語上級	1	-	1	1	1
アドバンスト科学英語Ⅰ	1	1	-	-	-
科学英語演習Ⅰ,Ⅱ	2	2 (***)	2	2	2
アドバンスト科学英語Ⅱ,Ⅲ	2	-	-	-	-
生命/科学倫理	1	1	1	1	1
現代生物学Ⅰ～Ⅲ	6	-	6	-	-
現代生物学上級Ⅰ～Ⅲ	6	-	-	6	6
フロンティアバイオ講義	8	8	-	-	-
現代生物学演習Ⅰ～Ⅲ	3	-	3	-	-
現代生物学演習上級Ⅰ～Ⅲ	3	-	-	3	-
現代生物学演習アドバンストクラスⅠ～Ⅲ	3	-	-	-	3
フロンティアバイオ演習	4	4	-	-	-
特別講義	1	-	-	-	-
基礎生物学特論講義	4	-	-	-	-
動物科学特論講義	3	-	-	-	-
植物科学特論講義	2	5	8	-	6
バイオテクノロジー特論講義	4	-	-	-	-
分子医科学特論講義	2	-	-	-	-
ケム科学特論講義	6	-	-	-	-
フロンティアバイオチュートリアル	1	1	-	-	-
英語論文講読	1	1	1	1	1
ゼミナールⅠ～Ⅲ	3	1	1	1	1
研究実験Ⅰ～Ⅲ	12	4	-	-	4
研究論文A	5	-	-	-	5
研究論文B	2	2	-	-	-
課題研究Ⅰ～Ⅲ	12	-	4	-	-
課題論文	3	-	3	-	-
合計		30	30	30	30

— : コースにより履修することのできない授業を示す。
 (*) : この授業の単位数は、修了の要件となる単位としては算入しない。
 (***) : 情報科学研究科及び物質創成科学研究科が他研究科学生に履修を認めている授業科目を履修し修得した単位及び共通科目を修得した単位については、専門科目として計4単位まで修了の要件となる単位として充当することができる。
 (注) 基礎科目の「現代生物学Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ」、「現代生物学上級Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ」、「フロンティアバイオ講義」のいずれを履修する場合においても、これを修得しなければ「研究実験Ⅰ」、「研究実験Ⅱ」、「研究実験Ⅲ」、「研究論文A」、「研究論文B」、「課題研究Ⅰ」、「課題研究Ⅱ」、「課題研究Ⅲ」、「課題論文」を履修することができない。

1.博士後期課程の修了要件
 博士後期課程を修了して、博士の学位を取得しようとする者は、定められた授業科目の必要な単位数を修得し、必要な研究指導を受けた上、博士論文を提出して、その内容を公聴会で発表し、論文審査及び最終試験に合格しなければならない。

2.博士論文を提出するときの条件は次のとおりである。
 (a)博士論文の研究内容に、獨創性、新規性あるいは有効性があること。
 (b)博士論文の内容の少なくとも一部分が、査読付きの英文科学誌に、博士論文を提出しようとする者が筆頭著者となった原著論文として、発表されているか又は近々発表予定であること。

3.博士の学位を授与する条件
 論文審査により、博士論文を提出した者が、独立した研究者又は技術者として、研究・開発活動を続けて行く充分な素養を備えていると判断できること。

授業科目の種類	設置単位数	細胞生物学専攻・分子生物学専攻 必要修得単位数	
科学英語特別講義	5	2	
国際バイオゼミナールA	4		
国際バイオゼミナールB	2		
国際バイオゼミナールC	2		
仮想プロジェクト演習	1		1
研究実験Ⅰ～Ⅲ	18		6
合計		9	

授業科目の種類	設置単位数	修得単位数		
		必修科目	選択必修	選択科目
共通科目	6(注1)			
一般科目	7(注1)	4		
基礎科目	20	6	2(注2)	2
専門科目	34			6(注3)
小計		20以上		
実験・実習科目	2	2		
ゼミナール	2	2		
研究論文	6	6		
小計		10		
合計		30以上		

(注1) 共通科目の「物質創成科学概論」と「科学技術論・科学技術者論」、及び一般科目の「物質科学英語上級」と「技術ベンチャー論」については、修了の要件となる単位としては算入しない。
 (注2) 基礎科目の選択必修科目については、所属講座が指定する科目(2単位)を履修しなければならない。
 (注3) 情報科学研究科及びバイオサイエンス研究科が他研究科学生に履修を認めている授業科目を履修し修得した単位、並びに共通科目の「情報科学概論Ⅰ,Ⅱ」と「バイオサイエンス概論Ⅰ,Ⅱ」を修得した単位については、専門科目として4単位まで修了に必要な単位として認める。

1.博士後期課程の修了要件
 博士後期課程を修了して、博士の学位を取得しようとする者は、必要な研究指導を受けた上、博士論文を提出して、その内容を公聴会で発表し、論文審査及び最終試験に合格しなければならない。博士後期課程の在学期間は通常3年であるが、優れた研究業績を挙げた場合には、博士前期課程と博士後期課程を通じて3年以上在学すれば修了できる。

2.博士論文を提出するときの条件は概ね次のとおりである。
 (a)博士論文の研究内容に、獨創性、新規性あるいは有効性があること。
 (b)博士論文の内容の少なくとも一部分が、査読付きの英文科学誌に、博士論文を提出しようとする者が筆頭著者となった原著論文として、発表されているか又は近々発表予定であること。

3.博士の学位を授与する条件
 論文審査により、博士論文を提出した者が、独立した研究者又は技術者として、研究・開発活動を続けて行く充分な素養を備えていると判断できること。

物質